

越前町議会・令和6年3月定例会一般質問【小松高宏議員】

(令和6年3月7日 午前10時32分 開始)

○1番(小松高宏君) 昨日は宮崎コミュニティセンターにて、当運営委員会が主催の年間行事である防災研修会が行われました。区長さんをはじめ宮崎地区消防団の方々、委員の皆さんほか関係者大勢の参加のもと、講師に和田防災士、小林消防副団長の兩名をお迎えして、集落単位で考える共助についてのテーマで開催されました。災害時に身近で起こり得る問題点などお話の内容は分かりやすく、昨日の吉田議員の一般質問にもありましたように、自助はもとより地域での共助の大切さをなお一層感じ、近県で起こった災害での災害被害状況を見れば、我が地区をはじめ町全体でも今後取り入れる必要性があると感じたところであります。

それでは、議長のお許しをいただきましたので、通告書に基づき一般質問をいたします。

越前町における災害対策について質問いたします。

本年元旦、石川県能登半島沖を震源とする地震が発生し、能登地区を中心に甚大な被害を及ぼしたことは、記憶に新しいところであります。この震災において、あえなく犠牲になられた方々に心から哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われた皆様にお見舞いを申し上げます。

発生から2か月余りがたっておりますが、復旧のめどはついておらず、いまだ避難所での生活を余儀なくされている方々がたくさんおられます。一日でも早く以前の生活に戻れることを願っております。

我が国日本は、過去にも阪神淡路大震災や新潟中越地震、東日本大震災、熊本地震など多数の大規模地震が発生しております。この言わずと知れた地震大国日本において、地震から身を守るためには、やはり備えが肝要であります。震災時の行動確認や避難場所の把握、防災グッズの準備など個人での備えはもちろんのこと、行政が行う備えも最悪な事態を回避するためには不可欠であります。

能登半島地震では、地震発生後間もなく東日本大震災以来初めての大津波警報を能登地方に、新潟県、富山県、福井県などに津波警報を発令しました。多くの方が指定された避難所や高台に敏速に避難したため、津波そのものによる被害は、東日本大震災と比較すれば少なかったと評価できるでしょう。

一方で、新たな課題も見つかったそうです。石川県のみならず津波警報が発せられた富山県、新潟県、福井県にお住まいの方も多くの方が避難されたそうですが、県外では緊急避難先に指定された小学校の鍵が開いていなかったため、外階段を使って3階まで避難するという事態が発生したそうです。発生が元旦だったこともあり、関係者が開錠に来るまでの時間も相当かかったそうで、その後、どんどんと避難者が集まり、万が一転んだりすると危険な状態だったと言います。一刻を争う避難において、こうした状況は避難者を焦らすほか、万が一の場合、想像もし得ない災難が起こる危険性があります。

こうした避難所の鍵が開かない事態を解消するため、新潟県の村上市では、震度5弱以上の揺れを感知すると、自動で開錠される鍵ボックスを導入しております。避難者が鍵を取り出して中に入ることができるシステムで、東日本大震災を契機に普及を進め、現在では市が直接管理する小・中学校27校に設置されております。我が町越前町においても、津波を想定したハザードマップや津波対策10か

条の作成やそれらの周知など、防災に資する活動を各種行っていることと認識しております。しかしながら、過去の災害から教訓を得て新たな対策を講じることも随時行っていく必要性も感じられるところ、まずは今後、越前町において鍵ボックスを設置する意向、さらに町内に指定されている29か所の避難所における耐震基準の適否について伺います。

また、9月議会において質問をいたしました越前町における水道水について、その有収率は71.9%と県内市町においても低い水準であることが判明しました。有収率が低い主な原因は、漏水箇所が多いことにあるようですが、過去の事例を見ても分かるように、地震が発生すれば、避難所への水の供給が寸断される可能性は極めて高い状況にあります。能登半島地震においても、いまだ水が寸断されているところも多いようです。水は、人が生活する上で必要不可欠なものであります。防災の観点からも、避難所付近の漏水配管の把握とその対策を早急に講じていく必要があると思いますが、町長の所見を伺います。

災害時における安定した生活水の供給は特に重要であります。ほかにも新たに取り組む予定の防災計画等があれば伺います。

○議長（佐々木一郎君） 町長。

○町長（青柳良彦君） それでは、小松議員のご質問にお答えいたします。

能登半島地震では、初めての津波警報を受けた越前地区において、多くの方々が徒歩や自家用車で高台や地区外に避難されたことで、避難対応の問題、課題が浮き彫りになりました。

まず、鍵ボックスの設置については、今回、避難所の開錠が迅速にできなかったことから、越前地区の津波避難場所に指定されている3つの小・中学校に速やかに鍵ボックスを取り付けました。自動感知方式や遠隔操作方式も検討いたしましたが、避難所開設の際には、まずは施設の安全確認が必要であることから、直接操作する暗証番号方式の鍵ボックスを採用いたしました。その他の災害にも備えて、令和6年度内に越前地区以外の学校など指定避難所に鍵ボックスを設置していく予定です。

避難所の耐震については、町が指定している学校など29の施設全てが現在の耐震基準を満たしております。

次に、水道管の漏水については、今年度から対策に着手しており、特に有収率が低い宮崎、越前地区の管路9.13キロメートル、給水736戸分について漏水調査を実施いたしました。今後、令和10年度にかけて漏水調査を行い、判明した箇所については、早期に修繕を行ってまいります。また、令和6年度から耐震化工事計画の準備を進め、避難所や公共施設、病院に至る基幹管路と浄水場や配水池等の耐震化工事に向け、国の交付金等の財源を確保してまいります。

次に、新たな計画等については、今回の対応を教訓にして、津波時における職員初動対応マニュアルを既に作成し、初動の充実を図っています。また、生活用水対策については、水道管直結型で容量40トンの耐震性貯水槽が朝日東部1号公園内に設置されていることから、住民への給水方法の具体化について、今後実施要領を作成してまいります。さらに、町内には消雪装置用をはじめ事業所、家庭用など多くの井戸があります。生活用水の確保策として、これらの把握と、所有者への協力依頼により、防災用井戸として活用できるよう進めてまいります。

能登半島地震では、町職員を現地応援のために派遣し、災害現場を目の当たりにしたことで、知見を得ることができました。今後は、この経験を踏まえ、地域防災計画をさらに実行性の高いものに充実させ、町民のさらなる安全・安心の確保

に努めてまいります。

以上です。

○議長（佐々木一郎君） 小松高宏君。

○1番（小松高宏君） それぞれの質問に対しまして、丁寧にご答弁いただきありがとうございます。

鍵ボックスについては、一部は設置済みで、ほかの箇所においても設置予定があるとのことで、早急にご対応いただきありがとうございます。

また、水道管対策についてご答弁いただきましたが、下水管に関しても、本年2月27日付福井新聞の第一面において、能登半島地震により能登地区における下水管計685キロメートルのうち実に52%に当たる359キロメートルで汚水を流す機能を失っていたとの記事が掲載されておりました。この被災割合は、過去の大地震と比較して突出して高いとのこと。本記事は、下水管に関わる記事ではありますが、耐震化工事未済の箇所が多く、損壊したことを踏まえれば、上水管もまた同様と見られます。

町に対しましては、町内水道管や下水管の点検、改修も併せて早急に行っていただけことを期待いたしまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございます。

（午前10時45分 終了）